

## 【各種ヘルメット規格について】

CEマークのラベルが貼られるENのヘルメット規格で言うと、

- ① EN966 スカイスーツ
- ② EN1077 スキー
- ③ EN1078 自転車
- ④ EN1385 カヌー

などの規格があります。(これは多くある中の使用例が多くあるのを抜粋した物です。)

これらの規格認定試験では、いろいろな条件設定で10~20種類の衝撃吸収テストを行いますが、代表的な衝撃吸収落下テスト(規定の頭部ダミーにヘルメットを装着して試験台で落下させます)の高さと衝突エネルギーは、それぞれ、、、(J=ジュール:エネルギーの単位)

- ① 1.5m 89J 、 ② 1.5m 89J 、 ③ 1.5m 89J 、 ④ 0.96m 29J

となっていて、カヌー用の性能要求値は低くなっています。

さらに、クサビ型の台に落とす落下テスト項目については、

- ① 1.5m 89J 、 ② 行なわず 、 ③ 1.06m 62J 、 ④ 行なわず

となっています。転倒時に石などの角に頭をぶつけることを想定しているようですが、整備されたスキー場ではその心配はないということでしょうか。

ICAROなどスカイスーツ用ヘルメットのメーカーは、EN1077スキー用規格よりEN966スカイスーツ用規格の方が厳しく、スカイスーツ用にEN1077を使ってはならない、とアドバイスがあります。

今までの講習経験で、練習場でほかのPGスクールの体験講習の方が転倒したときにスクール用ヘルメットが割れたことがありました。紫外線による劣化という要素もあったのかも知れませんが、いざというときに、これは良くない、と驚いた例がありました。

EN1078 自転車用規格もクサビ型の台に落とす落下テスト項目では、EN966 に及ばないのですが、自転車用らしくEN966 にはない換気機能の要求があります。これは、グラハン・練習場用にはとても良いと思います。特にメロンヘルメットは換気性能でもドイツで高い評価を受けています。

また、アメリカにも SNELL (スネル) 規格があり B90(古い基準)、B95(2.2m 110J)、N94(2m 100J 自転車及びエンジンがついていない乗り物)、大きく振り分けてこの3つの種類があります。調べていくと、アメリカ基準はヘルメットの強度を重視しており、衝撃吸収性は CE(EN)規格の方が優れていると考えられます。

SNELL: 人の名前で、レーサー時に事故があり、SNELL 記念財団が発足した。

日本にも製品安全性機関の中にヘルメット規格もがあり、それが JIS(SG) となります。